
台所

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

台所

【Nコード】

N7278A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

あなたは、夜一人でトイレに行けますか？行ける人も、行けない人も読んでみてください。

空転する換気扇がカタカタと音を立てている。
冷蔵庫のファンが唸っている。

私は、それらの音が耳に入るのを恐れて両手で耳を塞いだ。

お玉などはまだ良いが、鋭利な包丁や、フォークなどの食器が飛んでくるのではないかと恐れた。

夜になると、闇という闇が私の心の弱い部分をむさぼった。

特に、私の家はトイレに行くためには、どうしても台所を通らなければならぬ構造になっていたため、私はいつも明るいうちに、特に寝る前にはトイレに行くことにしていた。

今日も、間違いなくトイレに行ったのだが、昼間食べたスイカのせいか、またトイレに行きたくなったのだ。

なぜか、台所には電灯がなかった。昔はあったのだろうが、今は名残なのか押ししても引いても灯もらない裸電球のソケットがあるだけだ。

なぜ、台所にだけ電灯がないのかを母に聞いたが、いくら電球を取り換えても電気がつかないのだといていた。
配線の問題なのだろうか。

隣りの寝室の電気を全てつけてみても、入り口付近が少し明るくな

るくらいで、真ん中まで行くと、もう真っ暗だ。

そして、台所には窓がない。料理をするときは換気扇を回さなければ煙が籠るし、何よりも外の月明かりが一切入らない。

なぜ、窓がないのだろうかということは母に尋ねたことはない。

朝まで、もたないということは分かっていたので、私は決心して布団から這い出た。

父は単身赴任で家にいない。母を起こさないように、半ば起きてくることを願いながら……

不意に、台所の電気がついた。

さっき食べたばかりのカレーがテーブルの上に置いてあり、軽くラップがかかっている。

一昨日、溢したばかりの醤油の染みがくつきりしている。

私は安堵して、怖がらずにトイレに行けた。

手を洗って、布団に戻ると台所の電気は消えていた。
私は、そのまま眠った。

その日のことは良く覚えていてる。

あれは、父の幽霊のせいかもしれないし、夢だったのかもしれない。
父が死んだと知ったのは、一人でトイレに行けるようになってすぐ
の頃だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7278a/>

台所

2011年10月3日07時18分発行